

科目名		就職実務Ⅰ			
担当教員		目黒 敬也		実務授業の有無	有
対象学科	建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	就職活動はただ就職できればいいわけではなく、自分の望む企業、自分に合った企業に就職することが大切です。就活を成功させる為に必要な情報収集や企業研究の方法、面接試験対策について学びます。自分自身を理解し、志望する職種を研究し、納得できる就活をスタートしましょう。				
学習目標 (到達目標)	自分自身を知り、働く意義を理解したうえで、納得できる就職活動ができるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	勝つための就職ガイド SUCCESS、実践行動学、配布プリント				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	自分自身を知る ・実践行動学Part1「意欲的な心構え」		実践行動学を通して自分自身について深く考える。		
2	職業を理解する ・どのような職業があるのかを知る		世間にはどのような職業があるのか、自分はどの職業に興味があるのかを考える。		
3	就職活動の準備① ・就職活動の流れ、心構え		企業の採用計画はどのように進んでいくのか、どのような準備をしなければならないかを知る。		
4	就職活動の準備② ・情報収集、企業研究		企業研究するうえで、必要な情報は何かを理解し情報収集するための方法を知る。収集した情報から、企業を絞り込む方法を理解する。		
5	就職活動の準備③ ・自己PR		自分の強みを理解し、企業に対してPRできるように自己PRを作成する。		
6	就職適性検査		適正検査から自身の行動傾向を把握し、自己PRや面接試験に役立てる。		
7	第1回進路希望調査		実施した時点での進路について考える。		
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価テスト・課題	取組姿勢				
80 %	20 %	%	%	前期は自己研究を中心に行います。自分の将来について考え興味のある職業を調べたり、自分の強みや弱みを知り後期から本格的に始まる就職活動に役立てましょう。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建築大工として約5年実務に携わる				

科目名		建築設備			
担当教員		伊與部 聖奈		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、 授業の進め方		授業はプリントを使用し、分かりやすい言葉を用いたり図を描くなどして、イメージがしづらく取っ掛かりにくい設備分野の理解、知識習得を目的とする。また、練習問題を実施し、どのような出題形式で問われるかも合わせて確認する。 前期では、給排水衛生設備、換気設備、電気設備とどの試験でも中心的に問われる分野を学習する。 後期に目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		初学者の建築講座 建築設備 (第五版)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	給排水衛生設備			給排水衛生設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。	
2	換気設備			換気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。	
3	電気設備			電気設備の種類や特徴、問われる部分を整理して理解し、その分野も問題を解くことが出来る。	
4	※各分野ごとに評価テストを行う。(4回を予定)				
5	※毎回の授業で授業要点レポートに取り組む。				
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末試験	評価テスト	授業要点レポート		各分野ごとに評価テストを行う。評価テストに加え、授業ごとに授業要点レポートの提出を課すのでその評価も加える。課題提出を課した場合は、提出の有無、提出期限の厳守、課題内容によって評価をする。評価テストはもちろん、日頃の学習を疎かにすることなく、授業に臨むこと。	
50 %	40 %	10 %	%	建築設備は快適な居住環境を整えるためになくてはならないもの。身の回りで使われているところを探し、イメージを持って学習しましょう。	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務4年			

科目名		一般構造Ⅰ			
担当教員		目黒 敬也		実務授業の有無	有
対象学科	建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の構造の種類や基本的な仕組みを学ぶ科目で前期は木構造を中心に学び、木構造の特徴や構成を座学や事例を通して学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	建築物の構造の種類や基本的な仕組みを習得する。前期は木構造の工法や木構造に使われる部材名などを習得し、2級建築士学科試験の科目範囲の合格点に達するための知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社) ②配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	基礎 ①基礎の種類と特徴			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	地盤 ①地層による年代区分と、土の性質			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	建物にはたらく力 ①荷重の種類・外力の種類と建物にかかる力 ②地震に対する対策と構造計算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
4	建物全体の構造計画 ①建築構造の分類とその特徴 ②計画に適した構造の選択			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
5	木構造の基礎知識 ①木材の性質、特徴 ②木構造の種類とその特徴			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	在来工法-1 ①在来工法の部材の名称 ②在来工法の基礎と地業の種類と特徴			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	在来工法-2 ①在来工法の軸組の各部材 (土台・柱) ②在来工法の軸組の各部材 (横架材・筋かい)			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	在来工法-3 ①在来工法の壁の種類と特徴 ②開口部の部材の名称			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
9	在来工法-4 ①在来工法の接合部の納まりと接合金物 ②補強金物の種類と使用箇所			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10	評価テスト (2回実施予定)				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学びます。 1年の前期は木造を中心に解説をし、評価テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。	
50 %	40 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建築大工として約5年実務に携わる				

科目名		建築史			
担当教員	熊谷貴子		実務授業の有無	有	
対象学科	建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 教科書で用語とその説明、建築物名などをマークする まとめノートの記入 映像資料を視聴し感想文を記入 テストで学習達成度の確認 				
学習目標 (到達目標)	西洋建築の様式とその特徴、代表的な建築物や建築家を学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	○図説 建築の歴史 (学芸出版社) 各自で準備 ●教科書をチェックする色ペン ●まとめノート				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	「建築史」を学ぶということ・にいがたのケンチュク オリエントの建築		建築の歴史を学ぶ意義、新潟の著名建築とその建築家を学ぶ 古代オリエントの代表的建築物を学ぶ		
2	ギリシア建築 ローマ建築		ギリシア建築の特徴と代表的建築物を学ぶ ローマ建築の特徴と代表的建築物を学ぶ		
3	初期キリスト教建築・ビザンツ建築 ロマネスク建築		キリスト教建築のはじまりと 東ローマの代表的建築を学ぶ ロマネスク建築の特徴と代表的建築物を学ぶ		
4	ゴシック建築 ルネサンス建築		ゴシック建築の特徴と代表的な建築物を学ぶ ルネサンス建築の特徴と代表的な建築物を学ぶ		
5	バロック建築・ロココ 新古典主義建築・歴史主義建築		バロック建築とロココの特徴と代表的な建築物を学ぶ 新古典主義・歴史主義の特徴と代表的な建築物を学ぶ		
6	テスト1		学習達成度の確認		
7	産業革命と建築 近代造形運動		産業革命による技術革新とアーツ・アンド・クラフツ運動を学ぶ アールヌーボーと各地の近代造形運動を学ぶ		
8	モダニズム建築		近代建築三大巨匠のフランク・ロイド・ライト ミス・ファン・デル・ローエ ル・コルビュジエ を学ぶ		
9	テスト2		学習達成度の確認		
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価テスト	期末試験	取組姿勢			
40 %	50 %	10 %	%	世界の建築物とその様式を学び、これからの新しい創造への基礎知識としましょう	
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	建設会社にて設計補助・インテリアコーディネーター、職業訓練校にてCAD・製図の外部講師、現在家業の建築大工と協働				

科目名		建築材料			
担当教員		富山 翔		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物を構成する様々な材料の種類と性質に関する基礎知識を学ぶ科目で、前期は一般的に建築に使用される材料の種類や木材・コンクリート材料の性質の習得を目的として、座学や事例を通して学ぶ。			
学習目標 (到達目標)		建築物を構成する様々な材料の種類と性質に関する基礎知識を理解する。前期は一般的に建築に使用される材料の種類や木材・コンクリート材料の性質のに関する知識を習得し、2級建築士学科試験における科目範囲の合格点に達する力をつける。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築材料 (学芸出版社) ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	建築材料の概要 ①建築材料の歴史・規格・環境・分類・性能			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	木材-I ②日本建築における木材の種類・特徴 ③木材の強度・構造			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
3	木材-II ④木材と水分 ⑤木取り、規格、等級			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
4	木材-III ⑥エンジニアリングウッド			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	コンクリート-I ⑦コンクリートとは ⑧セメント・骨材・水の性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	コンクリート-II ⑨混和材料 ⑩コンクリートの性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	コンクリート-III ⑪コンクリートの調合設計・種類 ⑫コンクリートの製品			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	鋼材-I ⑬鋼材とは、製鋼の工程 ⑭鋼材の特徴・種類			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
9	鋼材-II ⑮鋼材の性質			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		建築士試験を受験するにあたって、建築材料についての知識は必須となります。1年次前期では日本の建築で多用される木材・コンクリートの知識を学習するため、重要科目と捉えて、配布プリントやテストで確認しながら合格基準への到達を目指します。	
50 %	30 %	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建築事務所において建築材料を取り扱う実務経験3年			

科目名		建築計画Ⅰ				
担当教員		本間 陽貴		実務授業の有無	有	
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の基本的な設計の考え方、計画の進め方を座学や事例を通して学ぶ。 1. 建築計画に必要な、単位、寸法、生活にもとづいた設計の考え方の重要性を学ぶ。 2. 条件と規制に則した建築計画の進め方の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)		建築物の事例から、平面計画を学び、建築設計に活かせる知識を習得する。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築計画 (学芸出版社) ②配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	建築計画の基本知識-1 ①単位と寸法 ・建築で使用される長さ及び面積の単位			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
2	建築計画の基本知識-2 ①人体寸法と動作寸法 ・人間工学に基づく人体寸法と動作寸法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
3	建築計画の基本知識-3 ①建築計画の進め方 ・モジュールとモジュラーコーディネーション ・機能計画(ゾーニング・グルーピング)、動線計画、規模計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
4	各部および単位空間の計画-2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
5	各部および単位空間の計画-2 ①単位空間の計画 ・廊下・便所・浴室、各室の寸法計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
6	独立住宅の計画-2 ①独立住宅の平面形式 ・平面形式(プランタイプ)について ②独立住宅の事例			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
7	独立住宅の計画-3 ①独立住宅の工法 ・住宅の工法に関する用語、各種工法			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的にテスト評価テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。		
50 %	30 %	20 %	%			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						
実務経験教員の経歴		公共・住宅設計に10年従事				

科目名		建築施工Ⅰ			
担当教員		広川 智子		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築を考えるうえで建築施工の基礎的な内容を理解しておく必要があります。そのために前期の授業では、工事契約から基礎地業工事を中心に解説します。建築施工を理解でき、説明できるようになることを目指します。授業の進め方は、講義→2級建築士の試験問題→解説を繰り返します。評価テストを実施し、理解度を確認します。			
学習目標 (到達目標)		前期は工事契約から基礎地業工事を中心に学び、2級建築士学科試験の科目範囲の合格点に達するための理解を目指します。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 建築施工 編著者：江口清ほか 発行：(株)学芸出版社 ②配布プリント、③配布資料★			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	【工事契約】 ①建築に関わる人々と工事の流れ・工事請負契約書 ②工事請負契約約款・仕様書			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
2	【積算】★ ①工事費の構成 ②工事費の算出 ③数量積算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②、③を理解する 準備学習：教科書①、②、③の予習	
3	【施工計画】 ①施工計画 ②施工計画書 ③工程計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②、③を理解する 準備学習：教科書①、②、③の予習	
4	【施工管理】 ①品質管理 ・ 工程管理 ・ 安全管理 ②原価管理 ・ 環境管理			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
5	【地盤調査】 ①地盤調査の種類 (サウンディング、平板載荷試験)			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	【測量】★ ①直接仮設工事の測量 ②各種測量			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	【仮設工事】 ①共通仮設 ・ 直接仮設 ・ 作業床 ・ 仮設通路 ②はしご道 ・ 災害防止措置			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
8	【土工事】 ①根切 ・ 埋戻し ・ 排水 ・ 山留			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
9	【基礎地業工事】 ①基礎 ②杭			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト	期末テスト	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築施工について解説します。 1年の前期は工事契約から基礎地業工事を中心に説明し評価テストと期末テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。 取組姿勢：授業態度、欠席、遅刻など総合的に判断します。	
40 %	50 %	10 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	住宅設計に10年以上従事				

科目名		住宅計画演習			
担当教員		目黒 敬也		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		一般的な住宅計画の手法を整理し、実際に各自でオリジナル住宅の計画を行いエスキスを完成させることで、プランニングのノウハウを体得することを目的とします。			
学習目標 (到達目標)		与えられた課題の条件から、適切な配置計画により、プランニングを行うことができる力を身に付ける。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図解 すまいの寸法・計画事典、配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	住宅プランのセオリー			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：住宅プランにおける各室の配置のコツを掴む 準備学習：教科書該当ページの予習	
2	オリジナル住宅エスキス-I ①建物規模の算定 ②建物の配置			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：エスキスを完成させ、提出 準備学習：教科書①、②の予習	
3	オリジナル住宅エスキス-II ①平面計画			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：エスキスを完成させ、提出 準備学習：教科書①の予習	
4	オリジナル住宅エスキス-III 初回とは別パターンの課題に挑戦			方法：教科書、資料を使って、説明、解説の座学 達成目標：エスキスを完成させ、提出 準備学習：先課題の振り返り	
5	発表、講評				
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢			建築士試験では、正確に課題を読み取りプランを計画する能力が問われます。まずは条件の整理の仕方と計画の考え方の基本を学習し、理解を深めていきましょう。	
90 %	10 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建築大工として約5年実務に携わる			

科目名		環境工学			
担当教員		佐野 綾香		実務授業の有無	有
対象学科	建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	建築計画と自然環境の関わりを理解し、快適で目的に応じた建築計画について学ぶ。 1. 前期は「建築環境の明るさと物の見え方」と「建築物の温熱環境」について理解する。 2. 快適な建築環境を実現する為の具体的な工夫について学ぶ。 3. 評価テストを適宜行い、理解度を確認する。				
学習目標 (到達目標)	建築空間を取り巻く外部環境や内部環境について理解し、安全で快適な建築空間を作るための知識を習得する。建築士の学科試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい建築環境、配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	視覚と光 ①光の単位 ②光によって生じる視覚の変化。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①②の予習	
2	昼光、人工照明、照明計画 ①日照及び人工照明による照明計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	色の効果 ①色彩によって生じる様々な効果。			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	色の表示と表色系 ①表色系の種類と構成			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	温度と熱移動 ①熱の移動と熱伝達、熱伝導、熱貫流率			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
6	室温と熱負荷 ①室温の変動 ②室内外への熱の出入り ③断熱性能			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①②③の予習	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		評価テスト：評価テストを適宜実施する他、レポートや課題の評価 取組姿勢：授業態度や課題の提出状況の評価	
50 %	30 %	20 %	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	設計事務所設計業務に4年間設計に従事				

科目名		設計製図A			
担当教員		中村 沙耶香		実務授業の有無	有
対象学科	建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	建築士試験でも重要な採点科目である、製図を基本から学ぶ。製図をしていく中で、記号や各構造の名称・意味についても理解を深めることで、現場に出た際の即戦力を身に着ける。まずはテキストに沿ってトレースしながら、製図のポイントを学んでいく。				
学習目標 (到達目標)	製図の基本となる線の引き方、建築文字の書き方を学び、各種名称についても理解を深める。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初学者の建築講座 建築製図 第3版 (市ヶ谷出版社)、配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	製図の基本 ①各種製図道具の名称、使用方法 ②線の引き方・建築文字の練習			教科書・配布プリントを使用する練習	
2	『配置図兼1階平面図』『2階平面図』の作図 ①基準線・躯体線の書き方			トレースの練習、各種名称の説明	
3	『配置図兼1階平面図』『2階平面図』の作図 ①各種仕上げ・設備・シンボルの記入			トレースの練習、各種名称の説明	
4	『配置図兼1階平面図』『2階平面図』の作図 ①寸法・名称の記入			トレースの練習、各種名称の説明	
5	『断面図』の作図 ①基準線・躯体線の書き方			トレースの練習、各種名称の説明	
6	『断面図』の作図 ①各種仕上げ・設備・シンボルの記入			トレースの練習、各種名称の説明	
7	『断面図』の作図 ①寸法・名称の記入			トレースの練習、各種名称の説明	
8	『立面図』の作図 ①基準線・躯体線の書き方			トレースの練習、各種名称の説明	
9	『立面図』の作図 ①各種仕上げ・設備・シンボルの記入			トレースの練習、各種名称の説明	
10	『立面図』の作図 ①寸法・名称の記入			トレースの練習、各種名称の説明	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題提出	取組姿勢			建築図面に初めて触れる生徒がほとんどのため、基本からじっくり学びます。図面の内容を正確に伝えること、見えやすく丁寧に、時には個性を持った作図ができるよう、進めていきます。 建築士試験では精度とスピードの両立が求められるため、試験に向けて作図のレベルUPを図ります。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満)・B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満)・D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴	住宅設計事務所にて図面に携わる実務15年				

科目名		建築法規Ⅰ			
担当教員		佐野 綾香		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築を考えるうえで建築基準法の基礎的な内容を理解しておく必要があります。そのために授業では、建築基準法などの基礎的な内容(主旨)を中心に解説します。基礎的な内容(主旨)を理解でき、法令集で確認できるようになることを目指します。授業の進め方は、講義→2級建築士の試験問題(法令集で確認)→解説を繰り返します。2~4回の授業毎に評価テストを実施し、理解度を確認します。			
学習目標(到達目標)		人々の生命・健康などを守るため建築物の最低の基準である建築基準法・建築基準法施行令を中心にした基本的な内容(主旨)を習得し2級建築士の筆記試験範囲にあたる合格点に達する理解度を目標とします。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説やさしい建築法規 著者：新村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社 ②建築関係法令集 発行：(株)総合資格学院、③配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	法規ができた歴史と改正等			建築基準法の歴史と法令集の扱い方	
2	①建築基準法の概要 ②法令用語の読み方			達成目標：項目①~②の法に関する分類・構成・形式を理解・説明できる 準備学習：教科書①~②の予習	
3	用語の基本定義 ①建築物・建築設備・居室・主要構造部・大規模の修繕 ②模様替え、特殊建築物・指定工作物			達成目標：項目①~②の法に関する条件・規制を理解・説明できる 準備学習：教科書①~②の予習	
4	建築手続き ①確認申請を必要とする建築物、 ②中間検査・完了検査、建築主事 ③特定行政庁・指定確認検査機関 ④建築主、設計者、施工者、建築主事等の役割			達成目標：項目①~④の申請に関わる手続き・検査が理解・説明できる 準備学習：教科書①~④の予習	
5	採光に関する基準 ①居室の採光 ②有効採光面積			達成目標：項目①の居室に採光の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①の予習	
6	換気に関する基準 ①居室換気の種類、換気の種類 ②アスベスト規制・シックハウスに関する基準			達成目標：項目①~②の居室に換気の必要性が理解・説明できる 準備学習：教科書①~②の予習	
7	構造に関する基準 ①居室の天井の高さ、床の高さ ②地階の住宅等の居室、長屋・共同住宅の各戸の界壁 ③階段、階段に代わる傾斜路			達成目標：項目①~③の条件・規制が理解でき計算ができ説明できる 準備学習：教科書①~③の予習	
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		建築基準法・建築基準法施行令を中心にした基本的な内容(主旨)を習得し、2級建築士の筆記試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する理解度を目標とします。	
50 %	30 %	20 %	%	取組姿勢：出席、授業態度、法令集線引き	
成績評価基準は、S(90点以上~100点)・A(80点以上~90点未満) B(70点以上~80点未満)・C(60点以上~70点未満) D(0点~60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		設計事務所にて設計業務を4年従事			

科目名		構造力学Ⅰ				
担当教員		星野 麻子	実務授業の有無	有		
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		建築系講義における構造力学の位置づけを理解する。 まずは構造力学を学習するにあたり必要な算術計算を理解した上で、部材に作用する力とは何かを学び、その力に関する基礎から反力までを学ぶ。 各項目について理解状況の確認の為テストを行う。				
学習目標（到達目標）		部材に作用する力の種類と計算方法を習得し、力の基礎から反力までを理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 やさしい構造力学・配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	構造力学に必要な算術計算			これから構造力学を学ぶにあたり、必要となる基礎的な算術計算を復習する。		
2	力の基礎			力の表現方法(主に力の向きと符号)を習得し、力を分解することについて学ぶ。		
3	力のモーメント			離れた力が離れた点にどのように作用するのかを学び、その計算方法を習得する。		
4	合力			部材に複数の力が作用するような場合、合わせてどのくらいの力が作用するのかを学ぶ。		
5	分布荷重			部材に分布する荷重を学び、その考え方と合力の算出方法を習得する。ここまですを評価テスト1で確認する。		
6	力の釣り合い			以後反力を学ぶにあたり、部材が静止すること・部材が釣り合うということについて理解を深める。		
7	構造物の支え方			部材の支持方法によって発生する反力の種類と特徴を学ぶ。		
8	単純梁・片持梁・張出梁の反力			以後この反力を求めることが必須になる。その基礎となるこの分野で沢山の例題を解いて様々な問題に対応できるよう理解を深める。		
9	ラーメンの反力			以後この反力を求めることが必須になる。その基礎となるこの分野で沢山の例題を解いて様々な問題に対応できるよう理解を深める。ここまですを評価テスト2で確認する。		
10				※評価テスト2の後で前期で履修した内容の応用問題にも挑戦し、これまでの内容について前期の終盤(現段階では夏休み明けの週を予定)に最終評価テストを行う。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価テスト1	評価テスト2	期末試験	取組姿勢	構造力学は建築士試験に於いて点数の稼ごころとなる部分です。全ての項目に於いてその後の問題を解くために確実に身に付けていかなくてはなりません。分からないところを分からないままにせずしっかりと身に付けて次に進むようにしましょう。解けた時の達成感を楽しみながら学習しましょう。		
20 %	20 %	50 %	10 %			
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。						
実務経験教員の経歴		住宅設計に11年間従事				

科目名		架構実習Ⅰ			
担当教員		桑原 琢也		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築大工の技術者として基本となるな道具の知識・使用法、管理を学び、在来軸工法の基礎的な技術を実習を通して学ぶ 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い基礎技術を身につける。 2. 加工、工法に応じた道具と、手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。			
学習目標 (到達目標)		建築工法が多様化している昨今、長い歴史と根強い人気を持つ在来軸組工法の基礎的な諸作業を行う実習を通して、建築大工の心構えや知識、技能の基礎を身につけ社会に貢献できる人材を育成する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		大工技術を学ぶⅠ			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	大工道具の準備、調整 (道具箱制作) ①道具箱の作成、 ②鑿の刃研ぎ ③鑿、鉋、のこぎり等の調整 ④手入れ方法など			方法：道具、材料を使って課題の加工方法の説明。 達成目標：安全管理ができ、①～④ができるようになる。	
2	基本的な仕口 ほぞ穴等の加工 (一般的なほぞ穴の加工方法の習得) ①木材に墨付け ②道具を使い加工			方法：道具、材料を使って課題の加工方法の説明。 達成目標：安全管理ができ、①～②ができるようになる。	
3	在来工法の各種継手、仕口の習得 (一般的な継手、仕口の加工方法の習得) ①木材に墨付け ②道具を使い加工			方法：道具、材料を使って課題の加工方法の説明。 達成目標：安全管理ができ、①～②ができるようになる。	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	課題			前期の内容は今後の授業のすべての基礎となる。確実に習得できるよう毎日の目標を設定し実習に取り組むこと。 知識と技術が必要な内容のため、使用道具を十分理解したうえで、安全な取り扱いに注意する。積極的に実習に取り組み技術の習得を目指す。	
30 %	70 %	%	%		
成績評価基準は、S(90点以上～100点)・A(80点以上～90点未満) B(70点以上～80点未満)・C(60点以上～70点未満) D(0点～60点未満、不合格または不受験)とする。					
実務経験教員の経歴		建築大工として30年以上			